

年 組 名前：

牧丘町の案内図描き直し



仕事や趣味を通じて30年以上にわたり鳥瞰図を描いている山梨市牧丘町西保中の温井一郎さん(65)は、24年前に同所の道沿いに設置した「牧丘町案内図」の描き換え作業を進めている。温井さんを含む地元住民らが協力して設置した案内図が、日差しなどで傷んだことから「から描き直すことにした。温井さんは「一分かりやすい地図にすることで道迷いをなくすことも、これからも牧丘の魅力をもっと多くの人に伝えていきたい」と話している。(土屋真佑子)

新しくなった
牧丘町案内図

24年前に設置した山梨市の温井さん 「魅力、歴史伝えたい」



牧丘町案内図を描いた温井一郎さん
＝いずれも山梨市牧丘町西保中

温井さんは、旧牧丘町職員の鳥瞰図を描き始めた。脚立に上り、道沿いの測量、設計、工事など土木関係の仕事に長年携わってきた。仕事を通して地形に詳しくなり、図面に触れることも多かったことから、趣味の登山の際にスケッチブックを持ち歩き、鳥瞰図を描くようになったという。2000年ごろ、県道のバイパス工事が行われ、元々の県道が町道当時に。何か面とから(町道沿いで)何か面白いことをしたいと、町おこしの一環として案内図の制作を思い立った。地図を描く経験が豊富だったことから、牧丘町を中心とした鳥瞰図を1人で制作。地元の仲間と協力と呼びかけ、木材や機材を持ち寄り半年間かけて縦2倍、横4倍の案内図を設置した。11年に一度描き換え作業をしたが、その後10年以上経過し劣化がみられたことから、昨年10月に3作目となる鳥瞰図を描き始めた。脚立に上りながら毎日7時間ほどかけてペンキで描き、11月上旬にほぼ完成させた。西保中や西保下を中心に南北25分、東西16分範囲の地図を描いていて、「今回は春先や秋頃に見られるぶどう色の山を描き、微妙に色を変えたり雲を入れたりして奥行き感を出すことにもこだわった」(温井さん)という。地域の歴史も知ってもらおうと、今後は史跡や名勝などの情報を書き加える予定だ。温井さんは「県外から来た人もどんな町か分かりやすいように描いている。地元の人でも地域の史跡や名勝を知らない場合が多いので、案内図を通して歴史を次世代に伝えたい」と話している。

(2025年1月24日付 山梨日日新聞 17面)

問1

山梨市牧丘町の温井一郎さんは、なにをどのように描き換える作業を進めていますか。

.....

問2

今後は、何を書き加えますか。またその理由を教えてください。

・書き加え:

・理由: